

## 20240831 古俱知安湖現地見学会報告

「古俱知安湖をめぐる」現地見学会を2024年8月31日(土)に開催した。

主催：最終間氷期勉強会・石狩沖積低地研究会

共催：北海道総合地質学研究センター (HRCG)

後援：地学団体研究会北海道支部

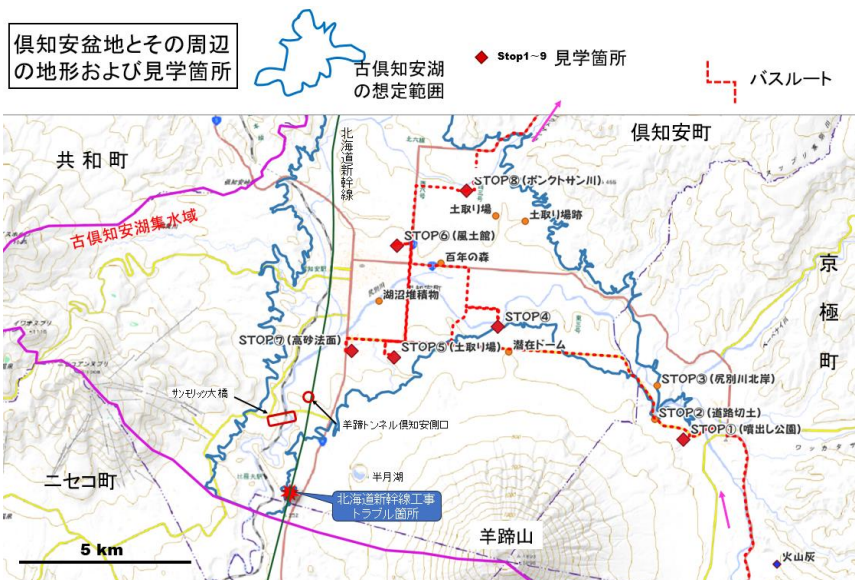
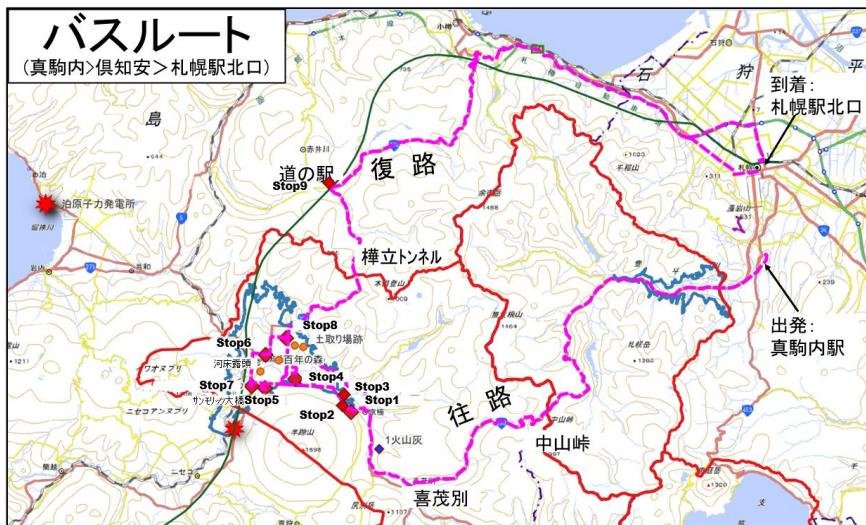
案内者：岡 孝雄、関根達夫、星野フサ、総務：米道 博

参加費：3,000 円

現地見学会案内書 (46 ページ) は主に岡と関根が作成。

参加者は子供を含めて21名。最終間氷期勉強会から13名、HRCG関係者は7名(うち5名は最終間氷期勉強会のメンバー)。メガフォンはHRCGの備品を使用。

バスルート



台風10号の影響で朝から雨降り。地下鉄真駒内駅を8:45に出発。

バス内で、見学コースの説明を行う。

9:25-9:40 中山峠 羊蹄山は雲の中。

10:20-11:00 STOP1 京極吹き出し公園

雨降りなので傘を差して遊歩道を歩く。

11:00-11:15 STOP2 羊蹄山溶岩。バスを停車、STOP3 対岸の火山灰露頭は、雨で霞んでいる。

STOP4 へ向かうバスの中から流山、噴火口、潜在ドームを説明する。

STOP4 への交差点を見落とししたので、ポイント5に向かう。

11:15-11:50 STOP5 の土取り場。雨で足元がグジュグジュしている。採掘が盛んであり、羊蹄山側に掘り進められていた。斜面上部では、ダンプ、重機が稼働中。三角州特有の斜層理（前置層）が見られる。支笏火砕流の二次堆積物が三角州前面の水中斜面に傾斜して堆積（前置層）。洪水によって新しい層が古い層の上に重なりながら三角州が前方に広がって行ったと考えられる。雨の切れ間に集合写真を撮る。



12:00-13:00 STOP6 倶知安風土館

展示室の床に貼ってある空中写真の上で、見学地点の確認をしました。学芸委員の小田桐亮さんが、昼食のために1階の会議室を開放してくれました。

13:00-13:50 STOP4 河岸に草が生い茂っており、尻別川の対岸の露頭を遠望する。午後からは、雨が上がった。

14:10-14:50 STOP7 高砂法面。斜面切土後に植生工をしていて地質が見られないので、スケッチ図や写真で説明する。高砂法面の南側には自然斜面が残されており湖沼堆積物（縞状のシルト）を観察する。その南には安山岩の2m大の岩塊を確認。更に南側には湖沼堆積物が分布していた。

14:50-15:05 STOP8 ポンクトサン川瑞穂露頭。斜面上部から、泥炭層を観察する。天気が回復し、羊蹄山が山頂まで眺められた。

なお、露頭観察とは別に、Kunijibanなどのボーリングデータの解析による、倶知安市街の地下地質（古倶知安湖堆積物）や、新幹線工事の進捗状況と問題点についても、案内書で紹介した。



15:25-15:40 STOP9 赤井川道の駅。新幹線のトンネル坑口、明かり区間には多数の橋脚が施行中。朝里インターから高速道路に乗る。

16:55 札幌駅北口（終点）に到着する。

朝方は雨降りだったが、午後には天気が回復し、予定していた見学地を回ることができた。